



それから、
ふたりのおばけは、
ずっといっしょにいました。

それは一つの絵本からなる
全く違う二つの物語。



「おばけの花園」をモチーフに、
ファンタジーと現代劇で描く二つの舞台
夢神楽 STAGE16

「トケルトゲ」

脚本：桐乃睦 &

「薔薇色の明日」

ばらいろのあした

脚本：白井ラテ(青色有線)

2016年9月17日(土)～25日(土)

於：シアターKASSAI(池袋)

詳細はHPにて→

劇団 夢神楽

http://
yume-kagura.jimdo.com



おばけの花園

ふたりは
ずっと
いっしょに
いました



「ズレて君は、その色の僕も、
僕だと言うの？」

そう言っ、もう一人のおばけは
色のない目で青いおばけを見つめています。

最後に青いおばけは
どうい、のバラを食べました。

すると青いおばけはとうい、のおばけになって、
姿が見えなくなりました。

「ねえ、僕はこんな色をしていなかった？」

「うん。それが君だよ」

もう一人のおばけはそう言いました。

ある日ひとりのおばけが言いました。
「僕にはどうして色が無いんだろう」
ふたりのおばけには色がありません。

「僕には遠い昔色があつた気がするんだ。でも
どんな色だったか忘れてしまった」

するともうひとりのおばけが言いました。

「君は充分きれいな色をしているよ」

「そんなことはない。
僕らには色が無いじゃないか。
まわりにはこんなにもたくさん色があるのに」

ふたりのおばけは花園に住んでいました
まわりには色とりどりのバラが咲いています
おばけは自分の色が欲しくなりました。
忘れてしまった色
どうしても思い出せないのです。

もう一人のおばけはそう言いました。
黄色いおばけはまた嬉しくなつて花園を飛び
回りました。

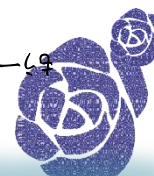
でもしばらくつと、また何だか物足りなくなつて、
今度は青いバラを食べました。
すると黄色いおばけは、青いおばけになりま

した。
「ああそうだ。僕はこんな色だった気がする。
ねえ、僕はこんな色をしていなかった？」

「うん。それが君だよ」

もう一人のおばけはそう言いました。

青いおばけは少し悲しくなつて
もう一人のおばけを見つめました。
青いおばけは色のない目で
青いおばけを見つめています。



「君は僕の色を覚えているかい？」

おばけは聞きました。
するともう一人のおばけは

「もちろん。僕はずっと君を見てきたんだから」

と言いました。
おばけは何だかうれしくなつて、

「そうだ。僕の色を探してみよう」

と赤いバラを一つ食べました。
するとおばけは赤いおばけになりました。

「ああそうだ。僕はこんな色だった気がする」

赤いおばけははしゃいで言いました。
「ねえ、僕はこんな色をしていなかった？」

黄色いおばけはまたはしゃいで言いました。

「ああそうだ。僕はこんな色だった気がする」

した。

すると赤いおばけは、黄色いおばけになりま
今度は黄色いバラを食べました。
「やっぱり少し違う気がする」と、

か、途中で何だか物足りなくなつて、
飛び回りました。

赤いおばけは嬉しくなつてびょうびょうん花園を
もう一人のおばけはそう言いました。

「うん。それが君だよ」

